

社会科学研究所 定例研究会 報告要旨

2011年8月5日（金） 定例研究会報告

テーマ： 愛媛経済の特徴－地域経済発展と産業集積の特徴－ほか

報告者： 鈴木茂（松山大学経済学部教授）

時間： 13時30分より16時45分

場所： 生田校舎10204教室

参加者数：12名

報告内容概略：

本研究会は9月4日より行われる夏季実態調査の事前研究会を兼ねて開かれた。愛媛県の地域経済研究に詳しい松山大学の鈴木茂経済学部教授をお招きし、「愛媛経済の特徴－地域経済発展と産業集積の特徴－」と「内子の産業おこしとまちづくり」の2題の報告があった。

「愛媛経済の特徴－地域経済発展と産業集積の特徴－」の報告については愛媛経済の概要及び愛媛企業の特徴の説明ののち、愛媛県で成長著しい企業（西南開発株式会社、株式会社横崎製作所、あわしま堂株式会社、三浦工業株式会社など）の事例分析がなされた。

休憩をはさみ、「内子の産業おこしとまちづくり」の報告では、内子町の概要説明ののち、内子町の町並み保存事業の展開や村並み保存運動、産業振興と産直市について報告がなされた。そしてそれらを支えるのが住民自治組織であり、自治会などの住民の内発的な取り組みと内子町の支援（人的支援・財政的支援の両方）の有機的な結合が成功要因になっているという結論を得た。

記：専修大学経営学部・佐藤康一郎

2011年8月23日(水) 定例研究会報告

テーマ： 国家の教育政策と私的価値領域および自由の問題

－ 学校、国家、宗教、そしてセクシュアリティ －

広瀬裕子『イギリスの性教育政策史:自由化の影と国家「介入」』をどう読むか

プレゼンター 荒井英治郎(信州大学全学教育機構専任講師)

コメンテーター 榎透(本学法学部准教授)

リプライ 広瀬裕子(本学法学部教授)

時間： 14:00-17:00

場所： 専修大学神田校舎 784 教室

参加者数：13名

研究会内容概略：

広瀬裕子著『イギリスの性教育政策史:自由化の影と国家「介入」』(勁草書房、2009。日本教育行政学会賞受賞)が提起している論点と、今後の課題を整理する研究会となった。

同書は、イギリスの性教育法定化を題材に、その政策の形成過程と背景を精緻に分析し、「国家による私的領域のメンテナンス」という政策パターンを抽出している。公権力の私的領域不介入原則に照らすと語義矛盾のようなこのパターンが、自由が実現したことによる問題をも射程に入れなければならなくなった成熟近代に蓋然性を持って登場しているというのが、本書の一つのモチーフである。こうした政策が登場した経緯は、当然に公私二元論を前提としていた社会科学の理論に問題を投げかけるものである。

研究会では荒井、榎の両者から政策科学、政治学、教育法学、教育行政学、ジェンダー論、憲法学の観点から論点整理と検討課題の提示がなされた。提示された論点と参加者からの質問をふまえて著者(広瀬)からリプライがなされた。

言及された論点は多義にわたる。解釈された事例と公私二元論との関連、政策が前提とする人間像の問題など理論課題を中心としながら、私的領域(&公共性)のフィクション性、政策特性と政策評価、憲法学と家族の問題、日本の性教育バッシング、ハイブリッド社会をリアルに把握できる人間像の建て方、成熟近代の統治の方法、等々にも話題が及んだ。

参加者からも活発な発言が続き、密度の高い研究会となった。

記：専修大学法学部・広瀬裕子

2011年8月29日(月) 定例研究会報告

テーマ： 中国の地域経済開発－遼寧省の事例を中心に

報告者： 施 錦芳 (中国東北財経大学)

時 間： 13:00-15:00

場 所： 専修大学生田校舎社会科学研究所会議室

参加者数： 6名

報告内容概略：

遼寧省は中国東北地域に位置し、4375万人(2010年11月時点)の人口を有し、2010年のGDP成長率は14.1%であり、急速に成長している地域である。とりわけ「遼寧沿海経済帯」は、遼寧省の沿海6都市(大連、丹東、錦州、營口、盤錦、葫芦島)にある経済開発区・工業区などからなる経済ベルトを指し、環渤海湾经济圈と北東アジア经济圈の中心に位置し、また日本、韓国、ロシア、北朝鮮に隣接している。

2007年、国家发展改革委員会と国务院東北振興弁公室が発表した「東北地域振興計画」によれば、長興島、營口、錦州湾、丹東と花園口の「五点一線」を中心に、臨港産業(造船、物流等)、ハイテク産業、現代サービス業(知識集約型のサービス業)が一体となった産業クラスターを目指すとされている。「五点」とは渤海と黄海に面した5カ所の重点開発区(「大連長興島臨港工業区」、「遼寧(營口)沿海産業基地」(盤錦船舶工業基地を含む)、「遼西錦州湾沿海经济区」(錦州西海工業区と葫芦島北港工業区を含む)、「遼寧丹東産業園区」、「大連花園口工業園区」)のことで、「一線」はこの5つの沿海重点開発区をつなぐ全長1,443キロメートルの濱海道路を指し、こうした計画に基づき、急速に開発が進んでいる。その中核にあるのが長興島臨港工業区で、2010年9月には専修大学の研究チームのメンバー二人(稲田と大橋)も視察した。そこでは、船舶、石油化学、装備製造、港湾物流などの産業が集積し、1980年代の珠江デルタ、1990年代の長江デルタ、2000年代の環渤海经济圈につづいて、2010年代は「長興島の時代」がくると期待されている。

上記のような内容について、統計資料を添付したパワーポイントに基づき詳細な説明がなされ、報告者と参加者の間で活発な質疑応答と議論がなされた。

記：専修大学経済学部・稲田十一